

令和 5 年 6 月 8 日現在

機関番号：17401

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2016～2022

課題番号：16K02040

研究課題名（和文）サークル活動とジェンダーの戦後史 生活・労働・教育の再編と東北・九州の女性たち

研究課題名（英文）Post World War History of circle and gender: reorganization of life, labor and education

研究代表者

増田 仁（Masuda, Megumi）

熊本大学・大学院人文社会科学部（文）・准教授

研究者番号：80510560

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,700,000円

研究成果の概要（和文）：戦後、家庭科教育と改良普及事業が生徒や農家女性に対して行った啓蒙活動である生活改善がどのように農村に働きかけ、どのような帰結をもたらしたのか、資料から実証した。さらに戦後農村における生活記録やサークル活動に関する資料を収集し、これらの活動が農家女性たちが生活に関する情報交換をし、自らの生活を客観視する手段として重要であったことを実証した。また、家庭科とジェンダーに関する考察を行い、家庭科のテキストとして分担執筆し刊行した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

生活記録やサークル活動に焦点を当てながら、農家女性たちの自律的な活動の意味を分析したことは、農村研究や戦後史研究、ジェンダー研究への貢献といえよう。また家庭科教育が行ってきた農村の生活改善の内実を実証したことは、社会学から家庭科教育学への知的貢献いえる。さらに家庭科のテキストを分担執筆し、ジェンダー研究が家庭科教育にどのように寄与してきたのかを一般向けに分かりやすく解説した。

研究成果の概要（英文）：This research focus on home economics education and life improvement spread business in rural during high growth period in Japan. And it analysis the process of 'rationalization' in rural life. Furthermore, this research focus on the significance of life records written by rural women and group activities among rural women. And it examines life 'improvement' of rural women.

研究分野：社会学

キーワード：ジェンダー 農村 サークル活動

1. 研究開始当初の背景

- (1) 家庭科教育学は教科書や授業といった教育方法の分析に焦点を当てる傾向が強く、(教育)社会学は教育現象の社会的文脈を研究対象としてきており、両学問分野には乖離が見られた。また、家庭科教育学は実践性、学校教育への貢献という志向性を強く有しており、学問としての体系化を試みる理論的・歴史的研究は少なく、一方(教育)社会学は理論研究も歴史研究も盛んになされており、学問の体系化を試みる傾向を強く有してきたが、学校現場への実践的貢献はあまりされてこなかった。このような特性を持つ両学問分野を繋ぎ、家庭科という教育実践の社会学的意味を問う視点を持つのが本研究である。
- (2) 戦後民衆史が蓄積されてきており、工場労働者や炭鉱労働者等の生活経験が掘り起こされ、分析の遡上に載せられてきているが、いまだ農家女性の自律的な生活実践を理論的に分析した研究は多いとは言えない(水溜 2013 現代思想 2007)。従って、戦後民主史とジェンダー研究、社会学、歴史学といった諸学問を統合する試みが必要とされていた。

2. 研究の目的

(1) 本研究では、戦後日本の農村における生活「改善」がどのように行われ、どのような帰結をもたらしたのか、その内実を問うことを目的としている。具体的には、家庭科教育や生活改良普及事業といった教育者や公務員による指導という名による上からの「改善」のみならず、生活記録やサークル活動といった農家女性による横からあるいは下からの「改善」(連帯)にも焦点を当てる。それぞれの立場の農村に住む女性たちが生活「改善」をどのように捉え、実践していったかを実証していく。それは、啓蒙という側面と連帯という側面から生活「改善」を問い直す試みである。

3. 研究の方法

(1) 理論的視座：

セルトーは、民衆による跡を残さない生活実践の理論的分析を行っている。本研究が対象とする生活記録も本当のリアリティーを描き切ってはならず、本当の意味での生活の跡を残していない実践である。また、本研究が取り上げる、サークル活動は一時的に集い、人々の心には残るが記録には残らない実践である。このような諸実践が社会を変える契機となる理論的視座をセルトーは提示している。さらにドンズロは教育的配慮の政治学を論じており、本研究の家政学的啓蒙を分析する上で有益な視点を有している。

(2) ホームプロジェクトや家庭クラブに関する資料の分析や以前行った生活改良普及員経験者へのインタビューデータの再分析をした。さらに、農家女性による生活記録の収集・分析、溝上泰子『日本の底辺』に寄稿された島根の農家女性による生活記録の分析等を行った。

4. 研究成果

(1) 3本の論文を作成した。題名と内容は以下のとおりである。

1、「高度経済成長期における農村生活の「合理化」過程とその帰結 家庭科教育と生活改良普及事業を焦点に 」

本論文では、当該期に家庭クラブの実施により家庭訪問を行うなど家庭科教員が疲弊し、工場労働への農家女性たちの参入により、生活普及事業が指導した生活改善グループは消滅へと向かっていくプロセスを分析した。

2、「高度経済成長期における農家女性による生活記録の意味 「生活」を「書く」ということをめぐって 」

本論文では、農村特有の沈黙の打破として、農家女性たちが集い、生活記録を記すことの意味を論じた。

3、「高度経済成長期農村におけるサークル活動と女性 家庭・地域の変革と子ども達 」

本論文では、女性たちが自由に振舞えない農村社会において、サークル活動を継続させるため

に子どもが姑を説得させるなど、陰ながら援助する様子を描いた。

(2) 家庭科のテキスト「家庭科とジェンダー」を分担執筆した。ジェンダー研究で練られてきた家事労働や性別役割分業といった概念について説明しながら、家庭科を社会科学的な視点から見ることの重要性を分かりやすく説いた。

(3) 全体を貫くパースペクティブを提示し、「はじめに」を加筆し、3本の論文の関連付けをするなど、著書刊行に向けての準備を行った。

引用文献

『現代思想 戦後民衆精神史』2007年 青土社

水溜真由美『『サークル村』と森崎和江』2013年 ナカニシヤ出版

ミシェル・ド・セルトー(山田登世子訳)『日常の実践のポイエティーク』2021年 筑摩書房

ジャック・ドズロ(宇波彰)『家族に介入する社会』1991年 新曜社

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 増田 仁	4. 巻 68
2. 論文標題 高度経済成長期農村におけるサークル活動と女性—家庭・地域の変革と子ども達—	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 熊本大学教育学部紀要	6. 最初と最後の頁 257-264
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 増田仁	4. 巻 67
2. 論文標題 高度経済成長期における農家女性による生活記録の意味 「生活」を「書く」ということをめぐって	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 熊本大学教育学部紀要	6. 最初と最後の頁 245-250
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 増田仁	4. 巻 66
2. 論文標題 高度経済成長期における農村生活の「合理化」過程とその帰結	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 熊本大学教育学部紀要	6. 最初と最後の頁 373-380
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 増田 仁
2. 発表標題 高度経済成長期農村におけるサークル活動と女性
3. 学会等名 第71回日本教育社会学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 増田 仁
2. 発表標題 高度経済成長期における農村生活の「合理化」過程とその帰結
3. 学会等名 第69回日本教育社会学会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 中西雪夫 小林久美 貴志倫子 共編	4. 発行年 2017年
2. 出版社 学術図書出版社	5. 総ページ数 221
3. 書名 小学校家庭科の授業をつくる	

1. 著者名 中西雪夫、小林久美、貴志倫子、財津庸子、増田 仁、黒光貴峰、瀬川 朗、伊波富久美、土屋善和、浅井玲子、室 雅子、永田晴子、駒津順子、上野顕子、及川大地、萱島知子、田原美和、都甲由紀子、國吉真哉、澤島智明	4. 発行年 2023年
2. 出版社 学術図書出版社	5. 総ページ数 232
3. 書名 小中学校家庭科の授業をつくる	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>増田仁ホームページ http://masuda.her.jp/</p>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------